

特集1 人を呼び込む、まちがにぎわう  
「観光」が地方創生の原動力となる

——まず、観光がいかんにして地方創生の原動力となるのかについて、どのように捉えていますか。

須田 地方創生というのは地方の経済を活性化することが一番のポイントです。観光によって交流人口が増えることで、定住人口が減少しつつある地方を再活性化することに繋がると思います。そして観光産業を通じて地方にお金がまわる。観光は非常に大きな経済行動なのです。それによって地域社会・経済が活性化され、まちづくり、国づくりの基盤ができてい

交流人口の増加が  
地方を活性化する

日本商工会議所は5月13日、提言「国と地域の再生に向けた観光振興について」を発表した。この提言では観光を日本経済再生の原動力として位置付け、地方創生のために重点的に取り組む事項として、地域観光の核となる「交流拠点都市」（仮称）の構築による全国各地への旅行者の分散・拡大の推進などを提唱している。そこで、国と地域の再生において観光が担う役割と観光産業および各地域が取り組んでいくべき課題について、日本商工会議所・観光委員会共同委員長の須田寛さんに話を聞いた。

ネットワーク構築で  
新たな魅力を発信

須田 寛氏

日本商工会議所 観光委員会共同委員長  
名古屋商工会議所 文化・観光委員会委員長



昭和6年生まれ、京都市出身。29年に京都大学法学部を卒業後、日本国有鉄道（国鉄）に入社。国鉄分割後、62年に東海旅客鉄道株式会社（JR東海）初代代表取締役社長に就任した。その後、同社長を経て現在は同社相談役。日本商工会議所・観光委員会共同委員長

▲広島県尾道市と愛媛県今治市を結ぶ、「瀬戸内しまなみ海道」を活用した自転車ツーリズムの推進など官民連携により圏域を越えた観光振興の動きが広がっている

◀延岡商工会議所（宮崎県）などでは農産物の収穫やまち歩き、自然を満喫する体験など、まち全体を会場にして「ならでは」の体験プログラムを提供する「えんばく」を実施している



く。しかも全国各地に観光産業は満遍なく存在しており、地方を活性化するにはまず観光からといっても過言ではありません。

——しかし近年、外国からの旅行者が増加している一方で、国内観光は伸び悩み、旅行者の行き先も大都市圏に集中していることから観光面での地域格差も出てきています。そこで、いかに旅行者を全国各地に分散・拡大させていくかが大きな課題となっていると思いますが、その点はどうですか。

須田 地元の観光資源は何なのかを各地域の人たちがもう一度しっかりと見つめ直す必要があります。でも、それがなかなか難しい。地元の人が思いもよらないことが他の地域の人から見たら観光資源になったりすることもありますから。

——そのような観光資源の具体例はありますか。

須田 中部地方にある周辺に何も無い、いわゆる秘境ですが「何も無い」ことがかえって評判を呼び、観光客が訪れるようになりました。地元の人「何もないのに」と首をひねるが、それが都会の人には新鮮だったのです。だから、よその地域に観光で訪れ、そこで何が観光資源として活用されているのかを自分の目で見て、それを

全国各地で地域を活性化させる地方創生への取り組みが進んでいるなかで観光産業が注目を集めている。観光産業は裾野が広い。その活性化は地域と中小企業の活性化に直結する。そこで今号は、新たな観光資源を掘り起こし、地域と地元中小企業をいかに元気にしていくべきかについてレポートする。

人を呼び込む、まちがにぎわう  
「観光」が地方創生の  
原動力となる

特集1

